

壊れたレコード

2023・7・19 校長 重枝一郎

私は、以前サッカーの指導を熱心に行っていました。よく言われることですが、プレーができるからといって、よい指導者になるとは限りません。私も教師になりたての頃は、自分の経験則だけで指導していました。そしてそれは熱血指導でした。ところが、2校目の赴任校にはサッカー部がなく、私が創部することになったのです。他の部活との兼ね合いもあり、1年生だけの入部という立ち上げになりました。それは特に問題ではなかったのですが、その学校の地域はサッカーを経験している生徒が少なく、サッカーの一般的な言葉やルールなどから教えることになったのです。それでも部員は、そこそこ集まりました。私は、本当の意味で初めてサッカーの指導の勉強をしました。海外サッカーを含め、膨大ないろんな「知識」を手に入れました。未経験の生徒であろうが、絶対こいつらをうまくするという思いでした。でも、「知識」を手に入れても「知恵」がなければ生徒をうまくすることはできないと思っていました。

サッカーの戦術は、「個人戦術」「グループ戦術」「チーム戦術」が繋がって成り立っています。つまり、個人からチームまで行ったり来たりして考えなくてはならないのです。戦術の中でも「チーム戦術」だけを取り出して考える指導者はよく見ました。これは、机上の空論に陥りやすく、「個人戦術」がなければ「チーム戦術」は成り立たないのです。「個人戦術」の向上は「知恵」がないと、何のためにこの技術が必要なのかを落とし込めません。私は、生徒の発達段階的に「知識」よりも「知恵」を育みたいと思いました。そして、サッカーを教える中で、コーチングを学び、「知恵のある選手」を育てたいという目標をもちました。

練習では、鬼ごっこやドッジボールなどを取り入れました。そういう遊びの中から「知恵」が養われると思ったので、アップの時はよくやりました。スピードの緩急や身のこなしなどにいい影響があったと思います。また、テニスボールを高く投げて取る練習も、生徒は風向きを計算に入れたりするようになりました。当然空間認知能力の向上にもつながりました。また、不規則なバウンドをするラグビーボールをゴールキーパーの練習に取り入れると、ボールをどの瞬間にどう抑えるのがいいのかを積極的に考えるようになりました。挙げたらきりがありません。

さて、このことを私たちの日常に置きかえて考えてほしいと思います。私たちは膨大な「知識」を手に入れる一方で、「知恵」を身につけたり、磨いたりすることが疎かになっていないかと思っています。私は、サッカーの指導において、「知恵のある選手」を育てるためには・・・と考えていました。でも今は、「知恵のある生徒」について考えています。

仕事や人生をより良くしていくためには、「知恵」を養うことが大切と言われます。

よく「生活の知恵」という言葉を聞きます。これは生活を豊かに、楽しくする秘訣と言われます。「知恵」を養えば、仕事上の不要なトラブルを避けたり、困難にあった時にもそれを上手に乗り越えることができたりするからです。

つまり、「知恵」を定義すると、「しっかり現実を捉え、より良く先を見通す力」

と言えます。みなさんはどうでしょう。ちゃんと不要なトラブルを避けたり、困難な事案を乗り越えたりする力が身についているのでしょうか。

では、どうしたら「知恵」を身につけることができるでしょうか。「知識」ではなく「知恵」を……。私も答えをもっているわけではありません。でも、ちゃんと人と関わっていれば、経験と相まって、「知恵」を身につけていくことができると思っています。今、いろんなことで苦労している人もいます。でも、いつの時代もそうであったようにそれは「知恵」で乗り越えられます。人と関りながら「知恵」を獲得してほしいと思っています。人というのは、友だち、先生などの準身内やこれから関わる人すべてです。

「知恵」を獲得すれば、今まで感じたことのないような感情を獲得することもできます。今までだったら到底解決できないと思っていたことでも解決できます。大きな人生の壁を壊すこともできると思います。

さて、1学期が終わり夏休みに入ります。どんな夏休みにしたいですか？ おそらく多くのみなさんは、目標を立ててがんばるぞ！マインドセットしていると思います。

でも、やってみてうまくいかないときはすぐにあきらめてしまうクセをもっていたりしませんか。

やってみて、思うようにならないとき、そこからが本気の自分、知恵を生むチャンスということになるのです。

この夏休みに、自分の本気でひと花咲かせてみましょう。特に高3のみなさん、自分の進路実現に向けて本気の自分を出しましょう。

また、夏休みは「危険がいっぱい」ということもよく言われます。「うまい話は危ない」「危険なところへ足を踏み入れるな」と言われても、先輩や仲間に誘われると断ることが難しいこともあります。そんな時の誘惑を断る方法として、だいぶ前になります。デートDVから身を守る方法を聞きました。参考になるかもしれません。デートDVから身を守るための方法は次の5つです。

- 方法その1 「ルール」自分を守るためにルールを決めておきましょう
- 方法その2 「タイムアウト」考えるための時間をキープしましょう
- 方法その3 「アサーティブ」さわやかに「NO」を言きましょう
- 方法その4 「壊れたレコード」繰り返し「NO」を伝えましょう
- 方法その5 「エスケープ」それでもダメなら離れましょう

この中では「壊れたレコード」が意外といい方法なのかと感心したのを覚えています。うまく伝えるのが苦手な人や相手のことを気にしすぎて断るのが苦手な人は、理由を何とか言えたとしても先輩や仲間にやり込められてしまうことがあります。そんな時は「壊れたレコード」が有効です。しかしこの方法はわがままを通すために悪用してはいけません（笑）。しかし「レコード」って知らないかな（笑）。

さあ、この学年での最後の夏休みです。当たり前ですが（笑）。「〇年の夏休みに〇〇な変化が自分に起きた」と後で語れるような夏休みしてみませんか。そういう意識がいい経験に結びつくのではないかと思います。

がんばろう！